

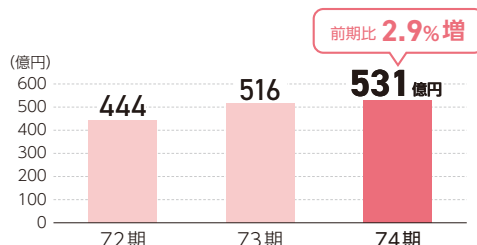
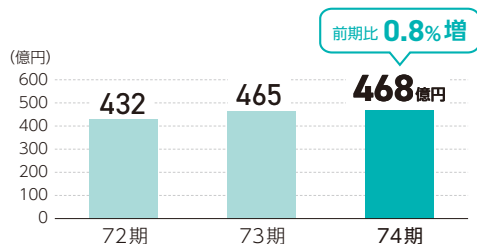
連結決算ハイライト

当期は、欧米では金融政策が緩和傾向にあるものの、地政学リスクもあり景気の先行きは不透明な状況で推移しました。国内では、昨年4月に施行された医師の働き方改革および昨年6月の診療報酬改定を受け、各医療機関はタスクシフトや業務の効率化に取り組む一方、物価や賃金の上昇により厳しい経営環境となりました。海外では、中国において反腐敗運動や景気減速の影響により医療機器の設備投資に慎重な姿勢が続いたものの、米国においては検査・手術件数の増加に伴い病院経営に改善傾向が見られました。国内外ともに、医療機関における医療の質向上と効率化が急務であり、データヘルス、遠隔医療、AI、ICTの活用など医療DXが推進されました。

当期の売上高は前期比1.5%増の2,254億2千4百万円となりました。利益面では、在庫評価減の減少、売価アップ、商品構成の良化により売上総利益率が改善したことから、営業利益は前期比5.7%増の207億1千3百万円となりました。一方、経常利益は、為替差損益が差損に転じたことから、前期比20.4%減の203億7千3百万円となりました。親会社株主に帰属する当期純利益は、投資有価証券売却益を特別利益に計上した一方で、投資有価証券評価損を特別損失に計上した結果、前期比17.2%減の140億9千8百万円となりました。

商品群別の概況 (連結)

① 生体計測機器		脳波計、筋電図・誘発電位検査装置、心電計、心臓カテーテル検査装置、診断情報システム、関連の消耗品(記録紙、電極、電極カテーテルなど)、保守サービスなど
国内	脳神経系群が二桁成長となり、心臓カテーテル検査装置群、心電計群も堅調に推移しました。一方、診断情報システムは好調だった前期実績を下回りました。	
海外	脳神経系群、心電計群ともに、アジア州他、特に中国での減収が影響し、前期実績を下回りました。	



③ 治療機器		除細動器、AED、人工呼吸器、心臓ペースメーカー、麻酔器、人工内耳、自動心臓マッサージ装置、関連の消耗品(電極パッド、バッテリー、アブレーションカテーテルなど)、保守サービスなど
国内	更新需要が回復したAEDに加え、人工呼吸器もマスク型人工呼吸器がけん引し、二桁成長となりました。	
海外	決算期変更影響に加え代理店での在庫調整もあり、デフィブテック LLCのAEDが減収となりました。一方、人工呼吸器は、北米で大幅増収となり、アジア州他、中南米でも好調に推移しました。	

<国内市場>

国内売上高は前期比2.0%増の1,452億3千7百万円となりました。顧客価値提案を推進するとともに、消耗品・サービス事業の強化に注力した結果、売上を伸ばすことが出来ました。市場別には、PAD市場^{*1}でAEDの販売が好調でした。大学、診療所市場は堅調に推移し、官公立病院市場も前期並みを確保しました。一方、私立病院市場は大口商談の受注もあり好調だった前期実績を下回りました。商品別には、治療機器が二桁成長となり、生体計測機器も堅調に推移しました。一方、生体情報モニタ、その他商品群は、前期実績を下回りました。

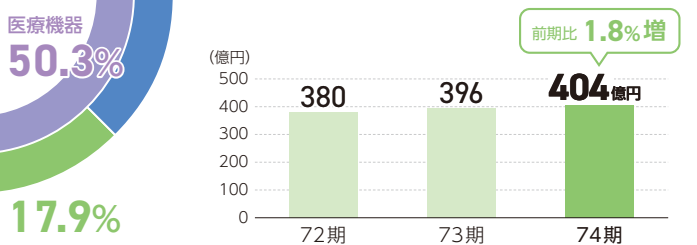
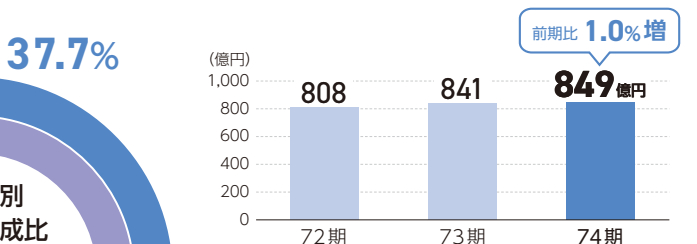
<海外市場>

海外売上高は前期比0.7%増の801億8千7百万円となりました。前期の米国子会社再編に伴うデフィブテック LLCの決算期変更の影響^{*2}に加え、アジア州他、中南米で低調に推移したことから、現地通貨ベースでは前期実績を下回りました。地域別では、北米は二桁成長となった一方、中南米、欧州、アジア州他は前期実績を下回りました。

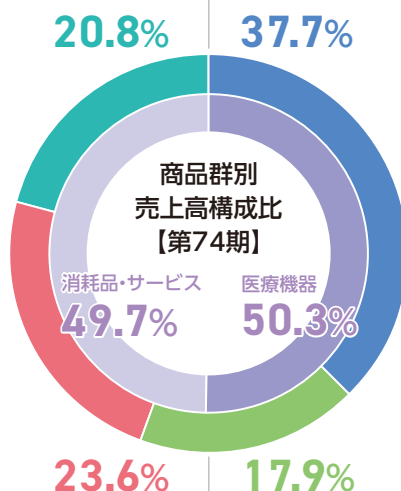
^{*1} PAD(Public Access Defibrillation)：一般市民によるAEDを用いた除細動。PAD市場には公共施設や学校、民間企業などが含まれる。

^{*2} 前期において、米国子会社再編に伴い、デフィブテック LLCの決算日を12月31日から3月31日に変更しています。前期は、2023年1月1日から2024年3月31日までの15ヵ月決算を連結しています。

② 生体情報モニタ		セントラルモニタ、ベッドサイドモニタ、バイタルサインテレメータ、臨床情報システム、関連の消耗品(電極、センサなど)、保守サービスなど
国内	センサ類など消耗品は堅調に推移したものの、臨床情報システムが好調だった前期実績を下回りました。	
海外	北米で二桁成長となり、欧州も前期実績を上回りました。一方、アジア州他、中南米では減収となりました。	

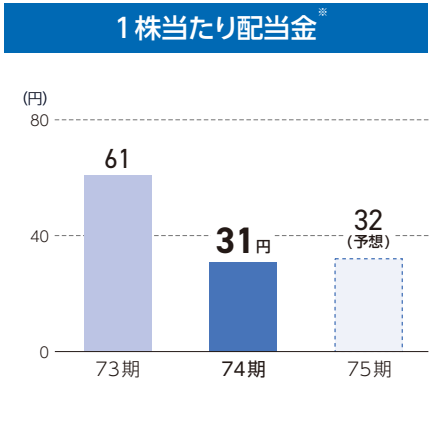
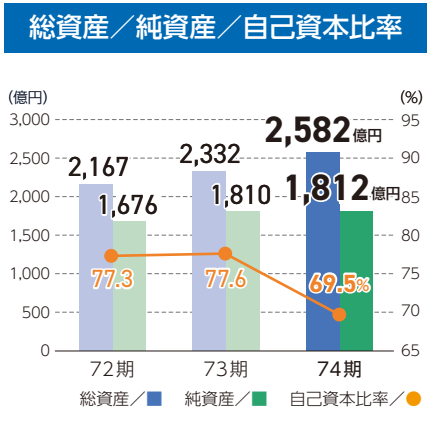
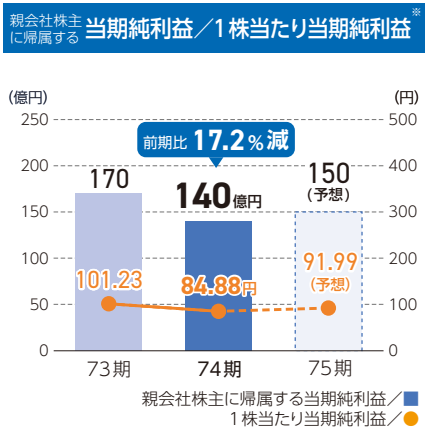
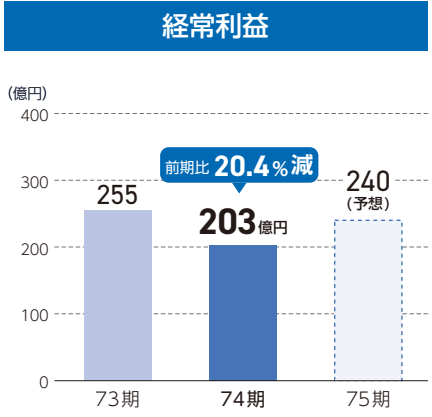
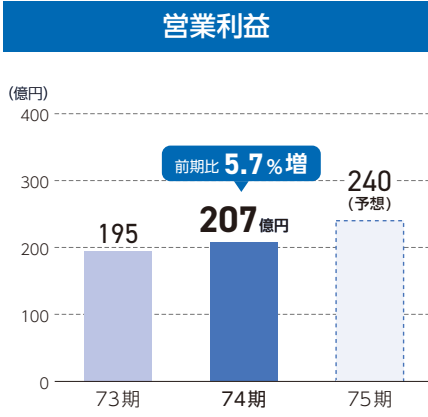
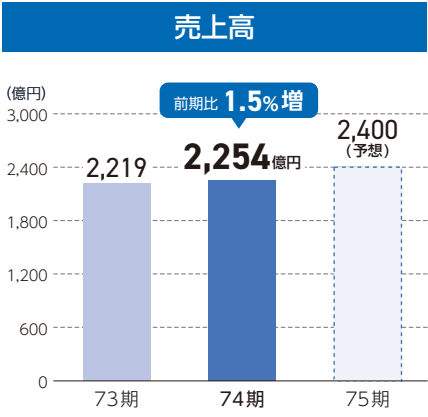


④ その他		血球計数器、臨床化学分析装置、超音波診断装置、消耗品(試薬、衛生用品など)、設置工事・保守サービスなど
国内	検体検査装置・試薬、医療機器の保守サービスは好調に推移した一方、現地仕入品が減収となりました。	
海外	欧州、中南米で検体検査装置・試薬が二桁成長となりました。	



連結決算ハイライト

本資料に記載されている内容は、将来に関する前提、見通し、計画に基づく予測が含まれており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。



※ 当社は、2024年7月1日を効力発生日として、普通株式1株につき2株の株式分割を行いました。「1株当たり当期純利益」につきましては、当該株式分割が第73期の期首に行われたと仮定し算定しています。また、第73期の「1株当たり配当金」につきましては、株式分割前の実際の金額を記載しています。

利益配分に関する考え方
利益の配分につきましては、健全な財務基盤を確保した上で、将来の企業成長に向けた投資と株主還元の充実を図ることを基本方針としています。優先順位については、①研究開発や設備投資、M&A・提携、人材育成など将来の企業成長に向けた投資、②株主還元としています。株主還元の指標・目標は「連結総還元性向35%以上」としています。株主還元については、業績の伸長に応じて安定的な増配を行うとともに、自己株式の取得は、今後の事業展開、投資計画、内部留保の水準、株価の推移等を総合的に考慮し、機動的に実施します。

地域別の概況

北米では、AEDは減収となった一方、生体情報モニタ、人工呼吸器、脳神経系群が二桁成長となりました。中南米では、ブラジルは好調に推移したものの、前期に大幅増収となったコスタリカ、コロンビアを中心に減収となりました。欧州では、ドイツ、イタリアは増収となりましたが、イギリス、オランダが減収となり、前期実績を下回りました。アジア州他では、中国での減収に加え、前期にモロッコでの大口商談の受注もあり大幅増収となった中近東・アフリカも前期実績を下回りました。

